

## ひな人形が青垣地域の秋を表現

### 丹波佐治福よせ雛

家庭で飾ることがなくなったひな人形を集め、展示する「福よせ雛」が23日まで青垣町佐治地区内にある14の店舗などで開催されています。

4回目の開催となる今年は、青垣地域の秋がテーマ。地域住民などから集められた約800体のひな人形が各会場に飾られ、テニスやサイクリングなどを表現しました。フライト場がある青垣地域らしいパラグライダーに乗った人形も登場するなど、一風変わったひな人形の姿で来場者を楽しませています。



リレーや大玉転がし、綱引きをするひな人形

## 植野記念美術館で初開催

### 1日限りのイタリアンDAY



観客に見守られながら即興で絵を描く作家のシモネッタ・フォンターニさん（中央）

2月11日、植野記念美術館でイタリア人作家6人による作品展「シルクロードの西と東 1日限りのイタリアンDAY」が行われました。同美術館で現役イタリア人作家の作品展が開催されたのは今回が初めてです。

展示室では来日したイタリア人作家との交流が行われ、各作家が自身の作品や技法を紹介したほか、即興で似顔絵などを描いて来館者を楽しませました。

## 食を通じた文化交流！

### ベトナムの家庭料理や文化を学ぶ

2月23日、氷上文化センターで、ベトナム料理教室が開催されました。ベトナム出身で市内在住のグエン・ティ・ヒエンさん、ヴォン・ティ・キム・トウエンさんが講師となり、ベトナムの家庭料理の揚げ春巻きのブンやサラダを参加者と一緒に調理しました。

参加者は「ブンは日本のそうめんに近い感じ」など、食を通してベトナム料理や文化などを学び、最後はベトナムで「いただきます」を意味する「シンモイアン」とあいさつし、できあがった料理を楽しみました。



揚げ春巻きの作り方を説明するグエン・ティ・ヒエンさん（左から2人目）



2月のごみ排出量目標値を達成しました！

みんなで家庭ごみ減量チャレンジ！



1日あたりのごみの排出量目標値：1人412g

2月の1日あたりのごみ排出量：1人362g (71g)

※ ( ) 内は前月比

### 通算9回目の目標達成！過去最少を更新！

令和3年5月号から始まった「みんなで家庭ごみ減量チャレンジ！」。1人1日あたりのごみ排出量の目標値を412gに設定し、取り組みの成果を毎月グラフ（左）で紹介しています。

昨年2月、3月、6月、9月に続き、令和7年2月の1人1日あたりのごみ排出量は目標値から50gマイナスの362gとなり、通算9度目の達成と過去最少となる家庭系可燃ごみ排出量となりました。市民のみなさんが一丸となってごみ減量の取り組みを続けた成果です。引き続きご協力をお願いします！

環境課（丹波市クリーンセンター内） ☎ 78 - 9999

丹波市消防署、丹波警察署、兵庫県消防防災航空隊が  
林野火災を想定した合同訓練

2月7日、氷上地域の細見池周辺で丹波市消防署、兵庫県消防防災航空隊、丹波警察署による林野火災合同訓練が行われました。

登山者が捨てた、たばこの火が山林に燃え移ったとの想定で行われ、迅速な消火活動と各関係機関との連携強化を目的に実施。通信が不安定になる事態も発生しましたが、現場で臨機応変に対応し、無事に訓練を終え、課題と教訓を分かち合いました。



山林で消火活動を行う消防隊員

伝統技術や職人たちのすごさを後世に  
短編映像をやまなみホールで上映



海外の国際映画祭で相次いで受賞した「Connect ~つなぐ~」

静岡県の映像ディレクター岡部聡監督が、檜皮職人たちの様子をまとめた短編ドキュメンタリー映画「Connect ~つなぐ~」が、2月15日、やまなみホールで上映されました。「伝統技術である檜皮葺きのすごさ、職人のかっこよさを映像に残し、後世に伝えたい」と、小国神社（静岡県）での葺替の様子などを約1年にわたって密着取材したものです。観客たちは、竹釘を口に含みながら1枚1枚ていねいに檜皮を重ねていく職人たちの技に感銘を受け、「ひわだの里・かみくげ」で時代を超えて受け継がれている伝統技術のすばらしさを実感していました。

ふるさと丹波に笑いを届ける  
丹波寄席「吉弥・由瓶ふたり会」

2月9日 ライフピアいちじまで、第8回目となる丹波寄席「吉弥・由瓶ふたり会」が開催されました。毎回前売りチケットが売り切れるほどの人気事業で、「枕」と親しみやすい落語に会場は和やかな空気に包まれていました。

26歳で笑福亭鶴瓶さんに弟子入りして27年。昨年、大阪天満・繁昌亭大賞奨励賞も受賞した笑福亭由瓶さん（氷上町出身 / 本名 由良宏人）。

「吉弥さんになりたい、有名になりたい、外車に乗りたいという夢をもってがんばっています。いつもふたり会をたのしみに来てくれる地元の方々の応援がとてもありがたい。これからもふたり会を続けていくので、ぜひ見に来てほしいですね。」



由瓶さんがあこがれる先輩の桂吉弥さん。「由瓶くんががんばっているから、こうして毎年たくさんの方が来てくださる。これからも落語を愉しんでいただく機会をどんどんつくっていきたい。2時間ほどの束の間の時間ですが、日常を忘れて愉しんでいただけるとうれいですね。」

枕：落語の舞台となる世界に観客が入り込みやすいよう落語の前にはなし。